

議会報告会・意見交換会記録

- 1 日 時 令和5年4月19日(水) 午後7時00分 開会
- 2 場 所 妙高保健センター大研修室
- 3 出席議員 5名
- | | | | |
|------|-------|---------|-------|
| 議 長 | 佐藤 栄一 | 厚生文教委員長 | 村越 洋一 |
| 総務委員 | 天野 京子 | 産業経済委員 | 植木 茂 |
| 総務委員 | 小嶋 正彰 | | |
- 4 市民出席者 7名
- 5 事務局員 2名
- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 局 長 | 阿部 光洋 | 主 査 | 貫 和志行 |
|-----|-------|-----|-------|
- 6 件 名
- 議会報告会・意見交換会
- 1) 開会
 - 2) あいさつ 議会報告
 - 3) 意見交換 「人口減少対策について」「農業の振興策について」
 - 4) 閉会あいさつ
 - 5) 閉会

1. 開 会

- 司会（村越洋一） 皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、大勢の皆様からお集まりいただきまして大変ありがとうございます。妙高市議会では、平成27年3月に制定された、議会基本条例に基づき、開かれた議会を推進する取り組みの一つとして、議会報告会・意見交換会を開催しております。今年は18日、19日、20日の3日間。新井、妙高、妙高高原と3つの会場で開催して参ります。本日は妙高市議会議員のうち、担当議員5名で進めさせていただきます。まずは議員5名の自己紹介をさせていただきます。そちらの方からお願いいたします。所属委員会と、それからお名前をよろしく申し上げます。
- 議長（佐藤栄一） 議長の佐藤でございます。厚生文教委員会に所属しております。よろしく申し上げます。
- 植木議員（植木茂） 皆さんこんばんは。産業経済委員会に所属しております植木茂です。よろしく申し上げます。
- 天野議員（天野京子） 皆様こんにちは。総務委員会に所属しております天野京子です。よろしく申し上げます。
- 小嶋議員（小嶋正彰） こんばんは。総務委員会に所属しております、小嶋正彰です。どうぞよろしく申し上げます。
- 司会（村越議員） 最後に私、本日の司会を務めさせていただきます。厚生文教委員会委員長の村越洋一でございます。どうぞよろしく申し上げます。会議を始める前に2点お願いがございます。まず1点目ですが本日の記録についてであります。議会報告会意見交換会につきましては、会議録を作成し、後日ホームページに公開させていただきますのでご承知おきいただきたいと思います。なお、参加者の皆さんの個人名は公開されませんので、ご安

心ください。そうした関係がありますのでご発言される際は、お住まいの地区とお名前を忘れずをお願いしたいと思います。またマイクをお渡ししますけれども、間違いなく記録するために必要になりますのでご協力よろしくをお願いいたします。もう1点ですが、お手元にアンケート用紙をお渡ししております。今後の参考にさせていただきたいと思いますので、この会が終わりましたらアンケートにご記入いただく時間をご用意いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは、大変お待たせいたしました。ただいまより、議会報告会意見交換会を開催いたします。お手元に配布させていただきましたレジメに沿って進めさせていただきます。

2. あいさつ 議会報告

○司会（村越議員） 初めに佐藤議長よりご挨拶並びに議会報告をいたします。

○佐藤議長（佐藤栄一） 本日はお忙しい中お集まりくださいましてありがとうございます。今年は3回連続の議会報告会・意見交換会を開催させていただくことになりました。日頃より本市議会の活動に対し、ご理解とご協力いたします心から御礼を申し上げます。さて私から、本日開催の議会報告会・意見交換会の趣旨と目的を説明させていただきます。まずは、市民の皆さんに、議会の取り組みを知っていただくとともに、市民の皆さんと情報共有、意見交換の機会を設けています。いただいた意見を市長、執行機関に伝えるだけでなく、委員会の活動につなげて参ります。市民の皆様方の負託にこたえるべく、安全安心な妙高市づくりに取り組んで参る所存です。まちづくりの政策決定過程の市民参加が、これからは重要になってくると思っております。裁量の妙高市に導くため、皆様のご意見を議会としての政策提言にやっっていく所存であります。ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

それでは3月定例会で審議しました、令和5年度一般会計予算について簡単に説明させていただきます。市民一人一人が幸せが実感できる妙高市へと発展させるため、SDGsを推進しながら、第三次妙高市総合計画に掲げる重点プロジェクト、戦略目標のほか、令和5年度行政経営方針を踏まえ、未来を担う子どもたちや若者の育成を推進し、社会環境の様々な変化に対応した魅力溢れるまちづくりを進める必要があります。市報みょうこうでご存知の通り、一般会計の当初予算額は218億4000万円で、前年度比8%、予算額で16億2000万円の増となり、妙高市となってから4番目の予算規模となっております。歳入は市税が全体の21.9%、地方交付税が30.2%を占めております。前年度予算との比較では、市税は個人市民税や法人市民税の増加などにより、7.5%増、地方では国税の増収見込みにより2.2%の増、市債は公共施設の整備など普通建設事業に対する発行額が増加することから、3.3%の増を見込んでいます。また、繰入金は、市の貯金に当たる財政調整基金から6億1000万円を繰り入れることから、16.8%の増となっております。歳出では、子育て、保育、高齢者福祉など、民生費の予算が最も多く、全体の22.2%を占める。次いで土木費、教育費の順になっています。具体的には新図書館等複合施設の建設への着手、小中学生の給食費の完全無償化、橋梁の長寿命化や朝日町住宅の大規模改修工事のほか、省エネ性機能住宅の取得に対する支援の拡充などを実現するための予算として編成されました。また、議会の取り組みとして、妙高市議会初となる議員提案による政策的な条例となります「(仮称)文化芸術基本条例」の制定を進めております。令和5年6月定例会での議決を予定しており、現在パブリックコメントを実施しています。こちらにつきましても、ご意見がありましたらお寄せいただきたいと思います。簡単ですが、以上であいさつ、並びに議会報告とさせていただきます。

最後に、妙高市議会の取り組みを紹介した動画を作成しましたので、この後ご覧ください。この議会報告会・意見交換会は、皆さま方の前向きなご意見、アイデア等を聞かせて頂き、これからの妙高市の発展に繋げて参りますので、よろしくお願いいたします。

【紹介の動画開始】

今日は皆さんから、市議会と市議会議員について、知ってもらいたく、ご紹介させていただきます。この動画で、市議会、市議会議員に対して、興味を持っていただけたら嬉しいです。それではご視聴ください。まずはじめのテーマは、市議会って何です。そもそも市議会とは、日本国憲法第92条において、議会に関する組織や権限、委員会、会議など、それぞれの内容が定められています。簡単に表現すると、自分たちが住んでいるまちをより住みよいまちにするためには、市民全員が集まり、話し合い、考え、決めていくことが大切です。ただし、市民全員が集うのは困難なため、市民の代表を選び、その代表で組織されるのが市議会と言い、市民の代表を市議会議員と言います。市議会の主な仕事としては、1つ目に議決、2つ目に選挙・同意、3つ目に検査・調査・監査、最後に意見書の提出の4つが挙げられます。それぞれの内容は、つぎのとおりです。1 議決。予算や条例などの決定、決算の認定、重要な契約や財産の取得・処分などの決定などをおこなうことです。なお、議会の議決がなされて、はじめて市の事業を執行することができます。2 選挙・同意。市議会の議長や副議長の選挙をおこなうことと、市長が選任する副市長や教育長、その他、各種委員などの人事に対する同意を行うことです。3 検査・調査・監査。市の事務や事業が適正におこなわれているか、適正に管理されているかを検査や調査し、関係者から意見の聞き取り、記録等の請求を行うことです。いわゆる市のチェック機能を併せ持っています。4 意見書の提出。市の公益に関することや生活にかかわりの深い事柄について、国会や国・県などの関係行政機関に対して、意見書を提出することです。

次に 市議会って必要なの。そんな疑問にお答えします。地方自治の基本原則のなかに、①住民自らが地域のことを考え、自らの手で治めること。②地域のことは地方公共団体、市が自主性・自立性をもって、国の干渉を受けることなく、自らの判断と責任のもとに、地域の実情に沿った行政をおこなっていくことの2つがあります。このことから、市議会は、みなさんの意思を決定する機関として設置し、市民にかわってみなさんの要望や意見を、市の行政に反映させていくものとして必要なのです。

次に、市民と市議会と市長の、それぞれの関係・役割はどうなっているのか見ていきましょう。市議会は、市民から選挙で選ばれた議員を代表として、意見・要望・相談などを伝えます。議員は直接市民からの聞き取りのほか、報告会や意見交換会の場を開き、そこで情報の収集を行います。その後、市民からの声をまとめ、市政に反映させるため、市への提案をはじめ、予算や条例などの決定を行います。市議会の具体的活動としては、年4回、3月、6月、9月、12月に定期的に開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。あらかじめ開催期間を定め、その期間中に本会議や委員会を開き、市から提案された予算や条例などの審査を行うとともに、市への提案などを行います。本会議とは、議員全員で構成される会議のことで、市から提案された予算や条例などの賛否を決定します。開催には、議員定数の半数以上の出席が必要となり、賛否の決定には出席議員の過半数が必要となります。本会議とは別に委員会というものもあります。委員会には、①常任委員会、②特別委員会、③議会運営委員会の3つあり、それぞれ取り組む内容が異なります。まず、常任委員会とは、各所管事項、市役所の中にある業務担当別に審査・調査をする委員会のことです。妙高市は、総務委員会、厚生文教委員会、産業経済委員会の3つの委員会に分かれています。議員は、必ずいずれかの委員会に所属します。2つ目に特別委員会というものがあります。特別委員会とは、特定の問題を審査するために設置される委員会のことで、議会の議決で一定期間、設置することができます。3つ目は議会運営委員会です。議会の運営を円滑、能率的に行うために設置している委員会です。

市議会において、忘れてはいけないものとして、議会基本条例があります。議会基本条例とは、妙高市自治基本条例の理念を受け、将来あるべき妙高市議会の姿を明らかにし、議会の最高規範として制定したものです。

続いて市議会議員にテーマを移したいと思います。市議会議員は、今まで以上に住みやすいまち、市民全体の幸せに向かって、市民の願いや意見がかなえられるように市議会を通して活動しています。全国各自治体がおこなっ

ている先進的な政策などについて調査、研究し、それを市政に役立てるため、各委員会等で行政視察を行うほか、政務活動に伴う会派視察をおこなっています。議員には一般的な休暇制度はありません。会議や市の行事に出席するほか、市民の声を聞くことも大切な仕事です。議会以外での政務活動もあり、公務、私的活動の区分がつきにくいことから、24時間休みなしとも言われています。この市議会議員をどうやって決めているかということ、市民からの選挙により選ばれます。なお、議員に立候補できるのは25歳以上の市民で、任期は4年間となっています。2023年4月現在の議員の報酬は、月額28万6900円で6月と12月には期末手当があります。そのほか、政務活動費として、1人につき最大で年間18万円の交付を受けることができます。

ここからは、妙高市議会が取り組んでいる様々な活動を紹介します。妙高市議会では、開かれた議会・寄り添う議会を目指し、次のような活動にも取り組んでいます。広報活動の一環で、妙高市議会、専用の広報誌として、市議会だよりを年4回発行し、全戸配布しています。そのほか、議会での様子を、YouTubeによるライブ中継や、録画配信もおこなっています。次に議会報告会・意見交換会の開催です。これは、市民の皆さんへ、議会の活動状況や、市の動きなどを報告するとともに、地元地域の意見や、要望などの聞き取りをおこなっています。外部団体との意見交換会。市内の外郭団体とも意見交換会をおこなっています。タブレット端末の導入。2022年8月から、全議員へタブレット端末の貸与を開始しました。現在は、紙とタブレットを併用する移行期間中であり、2023年6月定例会から完全移行を予定しています。議場でコンサートを開催。新井小学校と、新井中学校の合唱部によるコンサートを開催しました。議場の中は声も響きやすく、綺麗な歌声が議場内に響き渡りました。こども議会の開催。小学校等の児童や、中学校、高校の生徒を対象にした模擬議会をおこないます。本会議場を利用して、子どもたちが本格的に議会を行うことで、議会・行政の意義や、仕組みを理解してもらえるように取り組みます。出前講座の実施。選挙権年齢が、18歳以上に引き下げられたことから、未来を担う若者が議会活動の理解を深めてもらえるよう出前講座をおこないます。

以上でこの動画は終了となります。それでは、皆さん、次回は議場でお会いできることを願い、楽しみにお待ちしております。ご視聴ありがとうございました。

【動画の視聴終了】

○司会（村越洋一） ご覧いただきありがとうございました。それでは早速、意見交換の方に移らせていただきますので、議員の皆さん、こちらの方にスタンバイお願いします。時間も限られておりますので、有効に進めていきたいと思えます。今回はテーマを設けさせていただいております。ご承知の通り1番目として人口減少対策について、2番目として、農業の振興策についてとなっております。その後、テーマ以外のことについても時間があれば、お伺いして日頃皆様が、思っていることや、それからご意見等々をお伺いできればと思えますのでどうぞよろしく願いいたします。

3. 意見交換「人口減少対策について」

○司会（村越洋一） それではまず1番目のテーマ、人口減少対策について、意見交換をさせていただきたいと思えます。先ほど申しました通り、挙手をいただいてから、お住まいとお名前そしてご意見をいただければと思えます。それではいかがでしょうか。

○市民男性A 妙高高原地域の〇〇です。人口減少という少子化対策について、昨日の民報のニュースで言っていたんですが、ある町で小学校行くまでの子どもに対しての保育園料、医療、かかるものなしということで、近隣の市

町村から町に集まったっていう話なんですね。大分人口も増えたと子どもが増えたと。ただ私これ見てて思ったのは、子どもが増えても今度将来税金を払ってくれる方、定住して、払ってくれるかどうかというのは問題だと思います。だから全部みんな10年後20年後だって、20年後になって税金払ってくれるかどうかということを考えたかどうかと思いますね。今、東京都に一極集中的にみんな集まっているんだから。新潟県やこの町に税金払ってくれるかどうかというのが問題だと思います。だから今、うちの妙高市でやっているのが何とか給食費だけでも受入れてみたい、無料にして軽減になってきてはいるけれど、将来住んでくれるかどうかというのが一番の問題だと思います。だから、私は少子高齢化という言葉聞いたのは今からもう45年前から聞きました。だけど、住んでいるところが何も動かない前に、国で何もなくて今頃になってからやってんだからっていうふうになっちゃうんですね。だからみんな市が悪いかといえば私はそうは思いません。だからそのことについて、横浜市長が無料化にしました。だからこれからどれだけ収入、いわゆる税収が出てくるかって言うのが私は疑問。疑問っていうか、そこだけが心配です。だから私は、知り合いの子どもなんかがいるときに言うのは、あなたも早く税金を払えるようになりなさいということをおアドバイスしています。何しても構わんけども税金洗えるようになりなさいと言っています。以上です。

○司会（村越洋一）ありがとうございます。人口減少で自治体がそれぞれいろんな対策を行っていると、妙高市においては、給食費の無償化であるとか、医療の関係でもって定住促進をしてるんだけれども、将来住み続けていただけなのかどうか、そこら辺が非常に問題だというふうなことですよね。これについてはそれぞれの議員さん、いろいろご意見があると思いますので挙手していただいて結構なんですけど、順番等構いませんのでお話いただければと思います。いかがでしょうか。遠慮せずにどうぞ。

○天野議員（天野京子） お世話になります。私も子どもを産んで育てて、妙高市で返してくれると思っていたら1人はどうしても漁師になりたいということで出てきました。頑張っても海がないので、来いとも言えず、もう1人も娘は、電力会社勤めましても転勤商売なので妙高市には帰ってこない。ですから、正直、議員でありながら、自分の子どもですら、このまちに残せないという非常におっしゃる通りだなあというふうに思っています。今回アンケートをとった結果、なぜ子どもを産まないのかという中で、教育費がかかりすぎる。お金がかかるという。そのアンケートのトップが経済的問題でした。それを受けて国も舵を切りましたが、いち早く妙高市としては、給食費3歳児以上無償ということで、上越市との違いはまずはそこに出ているかなと思っています。今回これをやってみて、例えば、お隣とかから家を建てるなら妙高市っていうふうになるかどうか、私達も見当がつかないんですね。そういう意味では、しばらく動向を見ながら、本当にこれが皆さんの税金を使うわけですから、これが功を奏するののどうかっていうのを見守っていきたいと思います。また、この問題については国も乗り出しまして、いよいよ国として、給食費というのを無償にしようという議論が始まりました。そうなりますと、今回妙高市独自でやるはずだった給食無償の1億7000万円が浮く形になります。それをまた他のところに使うこともできますので、そういう子育て支援はしっかりと私も見ていきたいと思っています。ただ、先ほどおっしゃられたようにどんなに妙高市が良くても、出て行きました、戻ってきませんっていうことになるならばやっぱり職場がないと戻ってこれない。結婚できない。そういう意味では、まずはしっかりと仕事を妙高に持ってくるっていうのを同時並行していかなくちゃいけないなと私としてはそのように考えております。なかなかいい案があれば、どこの自治体でも参考にさせてもらって私達も勉強しに行くんですが、また妙高市に合った政策かどうかというふうにしなご意見を大切に、要望していきたく思います。大変ありがとうございます。

○司会（村越洋一） 今、岸田内閣がこども家庭庁を発足させて、いろんな支援に行ってるということで自治体ばかりじゃなくて、国全体として動いているという中で、天野さんが今ご意見いただきまして、他の方いかがでしょう

か。

○小嶋議員（小嶋正彰） 小嶋と申します。産業の部分からお話をさせていただきたいと思うんですけども、私妙高市に若者が来てくださるような魅力的な産業、大きい観光産業にしまして、それから今インバウンドも伸びております。世界にも珍しい良質な雪のスキー場だろうということで、注目を浴びております。そういった新しい私どもの気がつかない地域の良さというところもあるというふうに思っています。また、農業、これは妙高市の大きな魅力だとも思います。私らの年代ではお前長男だすけ、ここに残って田んぼやるのが当たり前だという時代でしたけども、他に勤めて兼業農家でやる。今の時代は、やっぱり新しい作物を植えたり、妙高地区で言えば、ブドウの栽培ですね、新しい産業を興して、そして魅力を作って、米作りにしても、農業法人化によってキチッと生活できる環境を整えれば、都会からも農業をやりたりという人も来ているんですね。そういうようなことで、地域全体の魅力アップ、これが少子化対策に一番大事じゃないかなと、これをやれば大丈夫だっていうものはないと思います。ないとは言えないけども、そういうものを積み重ねていかなきゃいけない。そういったものは、今度、次の総合計画でも市長はおそらく少子化問題を取り上げて、メインにしていくと思いますが、そういったものに私どもも期待をしているところでございます。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。地域全体の魅力アップということで産業面の立場で小嶋委員からご意見いただきました。意見交換ですので、本当に意見どうぞ。とりあえず一言ずつどうでしょうか。いかがでしょうか。

○植木議員（植木茂） 私の方から人口減少対策についてお話をさせていただきますが、人口減少とか少子化というところは妙高市だけじゃなくて、全国的な一つの大きな課題だと、政府としてもなかなかそれに対する対策というのは、出てきてるわけではないかなと。また子どもも非常に高学歴といいますか、みんな大学の方に行ったり、別の学校へ行って、それでやはり妙高市に雇用の場がないということで、戻ってこないというのが今の現状ではないかと思っています。妙高市としても、雇用の拡大を図っているんですがなかなか大きな企業が来てくれないということで、勉強してきた学生さんにとっても自分の学んだものを生かせる職場で働きたいというのが本心だと思いますので、そういうことを調べてどういう業種を妙高市に引っ張ってくるかということも大事ではないかなと思います。また、妙高市には大きな自然っていうものがあるって、観光にもやっぱり力を入れるということで、やはり観光を基盤とした妙高市を作り上げていく。それがまた、人口の増に繋がると私は考えておりますんで、そういうことを踏まえて、関係人口と言いますか、移住者を増やすというような形で人口を増やしていくということも大事ではないかなと私は思っております。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。昨日、妙高高原でインバウンド観光こういったもので盛り上げていったらどうかというふうな議論があったようであります。そういった意味で、仕事をこれから大事になってくるんじゃないかと植木議員からご意見いただきました。そうしましたら、佐藤議員お願いします。

○議長（佐藤栄一） ありがとうございます。もう人口減少っていうのも日本全国どこも一緒になっております。東京でさえ今高齢化が始まっているという状況でございますし、妙高市見ますと、先ほどちょっと調べたら、子どもが生まれた出生数、平成 29 年で 196 名でした。それが令和 4 年では 118 名と、半分近くになってきているという状況がすでに出てきている。これが本当に少子高齢化なんてものじゃなくて、この 118 名がそのまま妙高市にいたとしても、中・高校生の人数がそれしかいないということになります。妙高市全体ですすからね。ものすごい少ない数になってきているというのが数字として出ております。妙高市としても今移住定住で非常に頑張っていて、いろんなところから来てはいただいているんですが、とてもとても追いつく数字ではないという状況です。また新築に関しまして、上越市からも妙高市の方が、非常に補助対応がいいということで、栗原とか和田地区には結構家が建っております。建ってはいるんですが、そういったものは意外と 10 年、15 年経つと、だんだん高齢化してしまっ

子どもたちがいなくなっている、そういう団地が結構妙高市内にもあるというのが現実です。私考えますのは全体的に、もう妙高市、上越市だと言ってないで上越一円で一緒になって取り組んでいかなければ、これはなかなか先が見えてこない。10年ほど前は、昼間の人口と夜の人口、どっちが多いっていうのをちょっと調べたことあるんですが、なんと妙高市は昼間の人口が多かったんですね。ということは、妙高市に働きに来ての方が多という現実がございました。今はちょっと変わってきてるのではないかなと思うんですが、やっぱり昼間の人口が増えるような政策を作っていないと、なかなかその地域の元気が出てこないなというふうに思っております。残念ながら妙高市には工場団地の空いてるところ、ほんのちょっとしかないという現実もございまして、新しい工場を誘致するには、それなりにまた工夫しなきゃいけないというのがあります。私は今の交通の状態を考えれば妙高でも上越でもここの一体となって物事を考えていかないと、なかなか先見えてこないような気がしています。そんな思いであります。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。働く場が大事だということで今まで妙高市、小さい自治体の中で考えていたものも、より広域に考えていかなきゃいけないんじゃないか。そういったふうなご意見だったかなというふうに思います。最初ご質問にあったですね、税金払ってもらえるのか、いけるのか。それから将来、住み続けてもらえる妙高市になっていけるのかというふうなご意見だったと思うんですが、再度いかがですか。

○市民男性A 払ってくれる可能性が高いとしか言いようがないんですよ。だからその時に、お話しちょっと横道に逸れるかもしれないけど、私たち昭和30年前後ぐらいの人間が今は65過ぎて、いわゆるお茶飲み話、酒飲んだときの話っていうのは、年金と病気と借金の話なんです。ほんで借金は私たちの世代はマイホームだったんですね。だから今の30代40代の人たち、子ども3人いるなんていうと、いわゆる教育費に金かかるわけですよ。だから私と同級生でやっと大学4人子どもいて、4人みんな大学出したんだと。だから一番下まで出さなきゃいけないんだと、やっと終わったらしいぐらいな年頃なんです。だからその時に今、30代40代の人間と話しするのは、大学に幾らかかったと。私の場合は約1000万かかりましたと。私も同級生に、子どもは大学どこ行ったんだと聞いたら、あっこ行きましたと答えて、年間の授業料幾らだったって聞いたら、年間20万だった。それで親孝行なんですね。今の時代。だからそういうときにいかにもう安い大学行くには出ていくしかないわけですよ。だから、ここからだったら上越教育大、県立看護大学、いわゆる公立の大学行けるならまだ本当に親孝行だと思います。だからそういうことを考えたら、やっぱりお金かかるんですね教育費。だからそういうことを考えたら、これからどうするかっていうことが、定着してもらうためにどうするかということ、みんなで考えなきゃいけないと思うんですよ。だから、米百俵の考えをちょっと入れたらいいかなみたいな、私はそう思います。だから、私たちの時代だったら、さっきの借金の話じゃないけど、金利の話もしますから。金利があの時幾らだったとかっていう話しますけど、今だったら、建物建てるに1%とかいうけれど、今もう建築業界も新築にもう業者さんは軸足を置いてないんですね。もうリフォームなんですよ。ちょっとまた横道逸れるかもしれませんが、うちの地域で、結構税金の評価格が安いせいか結構県外から入ってくるんですね。だけど、この3年から5年ぐらいで入ってきたけれど、今年入れて3名出てきました。なぜかといったら雪の重さを知らない、雪下ろしの仕方知らないからみんな出てっちゃうんですね。それで一番困ったのはこの少子化じゃないけれど、子どもみた夫婦がいたんですが、一軒はアメリカ行っちゃったし、1人は県外に出ちゃったんですね、幼い子ども連れて。だから私たちにすると、子ども大事にしたいけれど幼稚園ぐらいになっちゃうとみんな連れて出ちゃうんですね。だから先ほど一番残念です。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。少子化ということで、人口減少対策については本当にもう、ここにいらっしゃる皆さん、子どもを育てる中で実感されていることかなというふうに思います。これに関連してどなたかご意見ある方いらっしゃれば、よろしいですか。どうぞ。

○市民男性B 妙高高原大字〇〇の区長やってます〇〇と申します。ちょっとこの数字にこだわって悪いんですけども。

一応今年から、小中学校の入学式に区長として来賓で呼ばれるようになりまして、妙高高原小学校が統合しまして、新入生が13名。総勢105名になりました。中学校が21名で、71名になりました。そして、今年の小学校1・2・3年生が6年後中学生になるんですが、このままいくと妙高高原中学校は6年後、50名を割ります。それで噂ですけども、妙高中学校と妙高高原中学校が統合するんじゃないかと。正直言ってね、今まで保育園やら統合しちゃったから、小学校もまさかこっちとこっちね。小さい一年生通わせなきゃいけないけど、中学生ならいいんじゃないかってことだと。正直言って私もあんまり良くわかんないけど、妙高中学校も妙高小学校もそんなにね、多くはないはずですよ。結局言ったけど、結局子どもに今金かけても結構出っちゃうんですよ。失礼な言い方ですけど。それで今3万人いますけども、何か構想だと何年後に2万4000人ぐらいになっている話なんですよ。ですがこれもうち私も区長会で言ったんですけど、わたしの〇〇地区の12年後は、今48件が30件。そして人口が70名です。その条件としては、一応私70以上はこの世から居なくなります。小学生はほとんど仕事がないから出ていきます。高校生を卒業すると。そうなるのと、今3世代の家もじいちゃん・ばあちゃんなくなっちゃった。子どももいなくなりました。そして40代の方が今度高齢者になります。そういう実情をね、皆さんわかってるのかなと思います。だからそういう3万人から2万4000人って全体見るのはいいんですけど、まず、小さな常会とか地区が何人になるか、そして今度は妙高高原地域が大体何人になるか。妙高地域は大体何人になるか、原通が何人になるとか、関山何人になるとか、そういうのを足して、妙高地域は何人になる。そして新井地区の中心部は何人になる。南部は何人になるとかね。私も配達やっていて、相当山までいきました。1個運ぶのに1時間半です。それでも行かなきゃいけないですよ。とにかく実情を知らないで、どっかの東京の何とか総研みたいなのがいうような計算はしないでほしい。とにかく今言っている。地区の私区長ですけど。役員が厳しいですよ。なり手もない。私も今年やめる予定でしたけども、私の下が一回り違うですよ。そうすると結局、その人また元気ですからね。平日の会議とか出られないんですよ。だから結局、なれないし、今の若い人はって言ったら失礼ですけども、家族が大事みたいですね。子どもが好きだから役員会来られませんか、区長になれば、区の役員会主催するんだから休むわけにはいかないですよ。どっかの社長になればね。何々頼むぞって言って、社長どうぞって挨拶で済むけど、結局、会議の1時間なり、1週間なり、そこらいろいろね、やらなきゃいけないということで分かってほしいということです。とにかく全体見るんじゃなくて地区を足して、これから今3万人が2万人になるかもしれないしね。それは誰もわかりませんがね。そういうことで、最悪部落も3万から今2万4000円だけ、なるべくそれ以下にならないような努力をしておかないと駄目じゃないかなと思います。以上です。

○司会(村越洋一) ありがとうございます。最もだと思います。妙高市と言ってもやはりそれぞれ小さい地区の集まりなんじゃないかと。そういう意味では今日この会場、妙高会場なんですけど、妙高高原からも来ていただいておりますし、そして新井南部地区からも参加していただいております。幸いといいますか私たち議員も、やはり全体の地区の中から選ばれてそれぞれが集まっているものですから、やはりそれぞれの地区の実情っていいですか、いろんなことを感じながらですね日々、議会活動をやらせていただいております。私も担い手不足に関しては本当にもう、切実な南部地区なんですけど、問題に今なっております、次の担い手がないと、もう次の役員さんが欠のまま、空白のまま。もう総会にかけなくちゃいけないような状態になりつつある。もうそれがもう10年経ったら大変なことになるんだということが今から想像できるわけですよ。そこをどうしたらいいかというお話になるかと思うんですが。そうしましたらいかがでしょうか。ご意見あればと思います。佐藤議員お願いします。

○議長(佐藤栄一) 人口少ないとか、役員のなり手不足っていうのは、山の話ばかりではなくて、街のど真ん中でも同じでございます。うちの町内ももう、70人くらいしかなくなりまして、幸いなことに空き家はないんですよ。空

き家はないっていうのは全部更地にしてくださっている状況ですね。それは街中としてはちょっと嬉しいなと思ったんですけど。でもやっぱりね、風通し良くなりましたね。本当に街中に更地がいっぱいできると、そこに一番困るのが売地っていう看板付けられるとざわっとしちゃうんですよ。この街は元気ないなと思われちゃって。そんなことを私も感じています。できればもう本当に高齢者ばかりになってきても、元気な高齢者でいようという形は何としても作っていききたいなというふうに思っています。昨日のテレビで高齢者によるeスポーツ。ゲームですね。あれをやっているのをちょっと見たんですが、非常に元気な高齢者、認知症防止に非常に効果があるっていう話が出てまいした。こういうのもここでもやっているんですが、もう少し盛んにしたりして、一人一人が孤立しないように繋がりを作っていく流れが一番大事ではないかなというふうに思っています。何としても先ほど今お話あったときに若い方々がなかなか、地区の役を受けてくれないのがうちの町内の現実です。ですから私ぐらいの年齢の人がずっと町内会長を順番に持ち回りでやっているという形になって、10歳下に下げようとしたってなかなか下がらない。もうずっと60代ぐらいから始めた役員が今70歳超えちゃって、そのままやっているのが現実の状況です。そういった中で何とかして頑張っていかなきゃいけないのは、どの地域も一緒だなというふうに感じております。なかなか特効薬がないのが、この現実ではないかなと思います。今妙高市大体年間500人くらいずつ人口が減っています。500人というと、私の部落、町内が70人ですから、5、6ぐらいの町内が無くなっていくのと同じ数字になりますんで、恐ろしいなというふうに感じてしまいます。そんなような思いを持ちながらも、何とかして、皆さんと一緒にやっとなきゃいけない。今妙高市では町内を合併というか、統合していこうかという動きも出しておりますが、なかなかこれはうまくいかないのが現実、隣の町内と自分の町内はやっぱりどっか違うんだという思いはどこの方でも持ってらっしゃるんで。なかなか進んでいないのが現実ですが、その近い将来本当に考えていかないと、回っていかなくなっているような感じがしています。それでまた皆さんと一緒に考えていければなというふうに思っております。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。人口減少等に伴ってですね、介護予防、そういった運営といいますかねそういったことも大事になってくるということでもありますね。ちょっといいですか。すいません。司会者特権っていうかあれで、今、eスポーツの話をいただきまして、私もちょっと先日体験させていただいて、この会場といいますかこの妙高支所を改装して新しくなりました。それで、ちょっとeスポーツの関係の方が今日たまたまいらっしゃるんで非常にいい機会なので、介護予防これ特別会計の中でeスポーツを推進しましょうみたいな形の予算が令和5年度入っているんですよ。私も見て驚いたんです。これ、eスポーツって何かゲームのような感じが私しているんですけど、ちょっと話ずれて恐縮なんですけど、その話ちょっとしていただいてもよろしいですか。

市民男性C 妙高地域の〇〇におります〇〇と申します。今eスポーツということなんですが、私も高齢者です。まだ後期にはもうちょっとあるんですけども。eスポーツっていいですか私のイメージは、いわゆるちょっと企業名出ますけども任天堂のスイッチ。これでボーリングですとかゴルフですとか、そういう体を少し動かすのがeスポーツというふうに認識して、ちょっとシニアクラブに入ったんですけども。実は昨日NHKのテレビ私も見ました。そしたらもうゲームなんですね。お年寄りがゲームをやる。非常にこれ、別に子どもたちがゲームをやるばかりではなくて、お年寄りがゲームをやってもいいと思う。ただそれが、お年寄りに何かリスクがどうなってくるような感じのゲームではちょっと困るから、例えば視力が極端に低下するとか、聴力が低下するとか、ただですね、低下してるものがさらに低下すると、そういうところだとちょっと困るかなと思っています。私の認識の中ではeスポーツは体を動かす。例えばボーリングでしたらこういう感じで少し体を動かします。ゴルフでしたら体を動かします。これが高齢者にはこちらの方が合っているかなと私はそういうふうに思います。なんて言いますか、指先と目を動かす。これは少し時間を制限した中でやるべきかなと思ったところです。

ついでに、人口減少対策の件でよろしいでしょうか。先ほどから市の魅力アップ、これが大事だという話を当然のことだと思うんですけども。では妙高市の魅力ってかなりいっぱいあると思うんですけども、先ほども出てましたけども、でもその逆にマイナスって何だろう。マイナスはやはり雪だと思うんですね。雪に関わることがものすごく多いんです。春夏秋冬はまあ良いとしても、冬のこのワンシーズンだけで、スキーとか観光にはいい部分もあるかもしれませんが、生活面では絶対にもうマイナスなんですね。これをじゃあ妙高市ならではの施策を何か考えられないのかなど。例えば除雪をしますよと屋根雪下ろしの補助もやりますよ。これは当然のことだと思うんですよ。今までなかったのがおかしいくらいですね。それだったらもう先ほど子どもの給食無償化ありましたけども。除雪にかかる費用はもう無償にしたらどうだと。或いは排雪に関わる費用、個人にかかる費用は、まあ全部を無償にするとちょっと財政も大変になるでしょうけども。その辺のところ思い切った施策、これを講じないと若者が定着するってことはまず無理だと思いますね。大学はやはり近郊の大学行ってそのまま、その生活がやはり自分たちに最適な生活だと、こういうふうになってしまえば、Uターンなんかしません。よっぽど魅力がないとないですよ。この辺のところを、やはり行政、議会、ある程度の政策提言をした中で、雪対策を重視していただく必要があるんじゃないかなと思っています。他のところはもちろんまだあるんですが、一番は雪だと思います。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。雪についてご意見いただきました。先ほどすいません。小嶋議員さん止めてしまって申し訳ありません。よろしいですか。

○小嶋議員（小嶋正彰） すいません。先ほどの〇〇の〇〇さんから、重要なお指摘3点ほどあったかと思えます。学校統合の問題。それから人口減少で自治体が成り立たない、停滞していく、それから役員のなり手が無い。そういうようなことだったかと思えます。私この問題を考えたときに二つの視点があるというふうに思っています。一つは、今の人口規模を維持していく。要はどうしたらいいかということです。そのためには、先ほどから申し上げてる新しい産業を興す、或いは移住定住を促進する。そういう前向きな積極的な施策がやっていかなきゃいけないだろうというふうに思います。もう一つはですね。少なくとも、少ない人口になっても、安心、安全で暮らしていける地域社会を作っていく。こういう方向性もあるんじゃないかというふうに思います。今の市が進めている政策の中で言えば、コンパクトシティ。施設を整備するにしてもですね。複合施設にして、一つの施設に複数の機能役割を持たせて、効率的に行う。こういうようなことですね。こういった観点を整理しながらですね、やるべきことは何なのか。そこを考えていただいてですね、確かに大変なことばかりで、あれもこれもやらなきゃいけない。これをやらなきゃいけない。わかるんですけども、限られた財源の中で有効に活用していくためには、少なくとも、少ない人口でも安心安全で暮らせる社会というものを一つの視点として考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。なかなか難しいですね。できれば具体的な政策提言みたいなものができていけば一番よろしいんでしょうけれども。非常に難しいところかなというふうに思います。先ほど〇〇さんから雪国の暮らし、雪がこれマイナスなんじゃないかっていう話もありましたそういったことも含めて、何か具体的な、これどうだっというふうな、政策提言できそうな方いらしたらいかがでしょうか。はいどうぞ。

○市民男性A 雪のことを言うと、だからさっきお話した通りうちの地域。移住してきて、この3年間で3名出ていたってのは雪の重さ知らないんですね、雪下ろしの仕方知らなくて。あと寒さなんですね、移住してちょっともう違う方法かもしれないけれど。小さい子どもいても、今度いい意味なのか悪いのかわかんないけど、県外に出るというのは、教育制度にも何かあるような気がします。だからその時に、いわゆる雪の重さ知らないからそうなっちゃうんですよ。だから笑い話みたいなことが、私経験したんですが、約30年ぐらい前から10月の末ごろになって、妙高高原町の時代で飲んでいたら、隣のお客さんから、あなたがた地元の人ですかと言われて、はい。と、私達静

岡から来たんだけど、妙高高原といえば、雪だし、今から雪見酒というわけにいきませんかねって言ったんです。10月の末に。そのとき私答えました。お客さん減多なこと言わないほうがいい。私たちは雪との戦いなんだと。冬は、だからそんなこと60才以上の人に言って、殺されたって無残になるところだよ。そういったら本気にして怖がっていた人が1人いましたけれど。だからそのくらいみんな雪に対してね、ある地域の人たちは雪で商売している人たちは、雪が降ってくるイコールお金が入ってくるのと一緒だって考える人もいます。だけど、雪となにも関係ない人だったら、やはり雪との戦いなんですよね。だから、先シーズン私自分のうち6回降ろして、7回名は3月だったからもう降ろさなかった。今シーズは2回で済みました。だから今年ほど楽なものはありません。だから下ろしただけで済まなくて、すかすっていうんですか。それ入れると4時間から4時間半かかるんですね。だから雪との戦いだから、安易に来てもらっても別に反対はしないけど。すぐにまた出ていっちゃうこと考えると寂しいなど私は思います。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。1番目のテーマにつきましては、人口減少対策ということで、それに対するご意見ということでいろいろ関連のお話をいただきました。そろそろですね、時間の関係もありますので、次のテーマになりますが、農業の振興策について伺っていきたくと思います。その前にあれですか。はいどうぞ。

○市民男性D 妙高高原の〇〇と申します。いつも市政発展にご尽力いただきましてありがとうございます。1点だけ人口減少対策に絡んで議員の皆さんのご意見をいただければというふうに思います。妙高市合併後ですね、いろいろ体育施設はじめ、施設整備、今後図書館作られるという計画になっていると思いますが、今後人口減少が進み、税収も予定どおり入ってこないというような状況になってくると思いますが、各施設のランニングコスト、何千万とかかる施設も市内にはいくつかございます。それをですね、今後人口減少が進んでいく中で、少ない市民の皆さんの税金の中から、それを捻出していくというようなことになるとと思いますが、例えば今、働いている方とか、今の高齢者の方々が生きてる間は大丈夫なのかもしれませんけども、次代を担う子どもたちに対してですね。それが負の遺産となるような、政策はあまり、あまりというかよろしくないというふうに思っています。今後人口減少が進む中で、それらランニングコスト、今まで整備した施設の維持管理についてどのように行っていけばよいか。ということ、こうしますという明確なお答えでなくてもいいので、こういうふうに向っていったらいいんじゃないかなあというような、ぼやっとしたご意見でもよろしいので、ご意見いただけたらありがたいなあと思います。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。ぼやっとした意見じゃなくて、きつときちんと回答いただけると思うんですが、施設維持に関して、これから人口減少で負担が大きくなってくんじゃないか。それに対する市の考え方ってどうか、についてお願いいたします。植木委員お願いします。

○植木議員（植木茂） 非常に難しい問題だと思います。施設も要望に沿っていろいろな施設を作ったわけですが、これが維持管理って一番大事になってくると思います。税収が減ってくる中で、維持していくのは大変になってくる時代に入っているんじゃないかなと思います。ましてや妙高市は高齢化が非常に進んでいるということで、そういう施設が実際に必要なかというところの見直しも今後考えていかなければいけないとこにきているのではないかなと私は思っている。それを踏まえて、またその旨をお話していきたいと思っております。

○司会（村越洋一） いかがでしょうか。佐藤議員お願いします。

○議長（佐藤栄一） 本当に施設というのは古くなると使いづらい。やっぱり、ある程度この地域が暮らしやすいっていうためには、公共施設の新しいものがいると私は思っています。そういう面ではある程度の公共施設、きっちりしたものが必要だなというふうに思います。その中で今妙高市では、公共施設のどれを壊すか。どれを残すかというのを取り組んでおります。計画を立てて、順番にそれに従って、もう古いものはスクラップ。ビルドしないよと

というような形を作ったりして、公共施設の整備を積極的に進めてるところであります。そんな中でその地域の中に、何もなくなるのは寂しいところもあるんで、そういったところはまた考えながら、一つの施設のような形で作っていつているのではないかなと思っています。あとランニングコストになりますと、今利用料は大体ランニングコストの1割ぐらいを住民の方々にご負担願うという形で、利用料・使用料を設定しているわけですが。これだって下手すれば見直しを考えなきゃいけないかなど。利用する側としても、多少の負担をしながらでも、全体でこれを維持管理していかなくちゃいけないという感覚も市民持たなくちゃいけないのかなってのを少し感じてはいます。どんと上げるってことより、そういったものを工夫しながら、お互いに知恵を出し合ってこの施設、もっと利用できるよというところは考えなくちゃいけないなとは私は思っています。

○司会（村越洋一） 小嶋議員どうぞ。

○小嶋議員（小嶋正彰） 簡単に。維持管理費用、当然作る時にどのくらいかかるか、何年で、トータルで幾らかかるか、こういう試算をしながら作っていくわけですが。もう一つ問題は、それが古くなったときに建て替えしなくちゃいけないというのがあります。妙高市では、公共施設の更新計画を作っています。その中の建物系で、40年間で900億円、960億円ぐらい。それからインフラ系、橋だとか道路だとかそういったものを直していくために、670億円ぐらい。ちょっと概算で申し訳ないですが、ちょっと勘違いしてたら、ちょっと後で修正させていただきたいと思いますけど。そのぐらいかかる1年間にすると、24億円とか、そこらぐらいのことを更新をしていくために、お金がかかるって試算もあります。ただ、これを本当に所有していかなくちゃいけないのかどうか。今ほど議長の方からもお話ありましたけれども、そこはですね。これどうしても必要な施設だったとか、これは何とか統合して機能を維持して残しながら、建物については、コンパクトにしていくとかですね、そういう工夫がこれからは必要だよと、長中期的な財政を計画をきちっと立てながら、維持、サステナビリティと言いますか、持続可能なこの妙高市っていうのを作っていく、考えていかなければいけない時代になっているのかなという思いであります。以上です。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。小嶋議員からいただいたようにですね、統廃合によって無駄をなくしていこうとか、必要なものでも、作らなくちゃいけないよねとか、そういういろいろなせめぎ合いの中であるかなというふうに思います。それでですね妙高市ではそういった計画も長期的な計画を作っております。例えば妙高市公共施設有効活用再配置計画とか、あと妙高市公共施設等総合管理計画とか、そういった形でですね、実はもう将来に渡った計画というものを作りながら管理をして、長寿命化をしたり、止めるものは止めるというような形の計画は一応できています。ただ、それに対して予算がうまくつけば、本当にいいんですけども、なかなかそうはいかないところもあって、もし気になりましたらインターネットで維持管理計画と妙高市とか言って検索していただくと、そういった計画が出てきますのでぜひ参考にご覧いただければいいなというふうに思います。それでですね、以上で人口減少に関しては、一旦閉じさせていただこうと思うんですが、まだご発言されていない方もありますし、この後、農業問題ということで振興策についてという話題に移らせていただきたいと思います。それ行く前に、今の人口減少でどうしてもこれは言っておきたいという方いらっしゃいましたらよろしいですか。よろしいですかね。

3. 意見交換「農業の振興策について」

○司会（村越洋一） 次の農業の振興策についてということに移らせていただきます。いかがでしょうか。どうぞ。

○市民男性E ○○○○と申します。お世話になっております。農業関係なんですけど、大原地区におきましても、荒廃農地が非常に進んでおりません。特に田んぼについては作っている方が多いんですけど、畑なんですけど、非常に荒

廃していると。聞くところによると、昔はその葉たばこということで、大原には葉たばこが一番有名だったと言う事で作とったんですが、今こういう時代になりましたので、たばこやめて、そのまま荒れているというのが現状なんです。何かいい方法がないのかどうか教えていただきたいと思っております。

○司会（村越洋一） ストレートな質問なんですが。小嶋議員どうぞ。

○小嶋議員（小嶋正彰） おっしゃる通りであります。私は市役所入って最初に入ったのが農林課で、葉たばこ生産組合ってのがありまして、原通のセンターで総会に招かれまして、総勢 200 人ぐらいですかね、すごい熱気でした。本当にそれが外国からのたばこの輸入自由化によりまして、あっという間に国産たばこの作付けが減っていったという現実がございます。そういった具合にですね。畜産もそうですし、いろんな面で外国と競争にさらされてるのが今、農業です。そういった意味ではですね、私は今回のウクライナじゃないんですけども、食料安全保障の問題、こういったところからですね、国がきちっと農業を守っていくっていう保証制度をしっかりとやるべきではないのかなというのが一つ、考え方としてあります。そうは言っても地域の農業を守っていかなきゃいけないということで、米づくりについてはですね、圃場整備をして、大きな機械を入れて、効率的な生産体制を作っていく、或いはドローンを入れたり、新しい技術革新が進んでいるわけですけども。問題は園芸です。新潟県も園芸作物の振興ということで非常に力を入れております。なぜかという、園芸の方は非常に所得が上げやすい。所得を上げるためには園芸に取り組まなきゃいけない。越後姫なんていうイチゴですとか、そういったのはあるんですけども。ただ労力、非常に米よりも、何十倍っていう労力が、品質管理が非常に厳しいというなことで、なかなか展開を進められていないというふうに思っております。妙高市におきましても園芸振興ということで、主要作物を指定しましてこれを作りましょうということでやっています。今は、ネギ、ピーマン、ナス、ブロッコリー、こういった 4 品目について、これをやると補助金 10 アール当たり 6 万 8000 円ですかね。こういうような補助事業を作りまして園芸振興に取り組んでいただきたいというふうな取り組みをしております。また問題は、販路なんですね、販売路。これについても J A さんだとか、そちらの方に出荷するとすると、ある程度ロットが高まっていないといけない、それから品質が安定していないといけない、長期的に出荷しないとできないようなネックもございます。そういうものであれば、直売所、こちらの方にあるとまとが非常に成功しております。年間何億円という当初から考えるともう本当夢のようなすばらしい成績を上げておられる直売所もございますし、また道の駅あらいの方ではですね、新しい色彩館もやっております。そちらの方では、有機農業だとか、新しい農業政策の方にも取り組んでおりますので、できる所といたしますか、お年寄りの方でも取り組めるような、そういう現実的なところからですね、この畑の利用。荒らしているのはもったいないといいますか、本当に草ぼうぼうになっているのを見るとですね、昔の葉たばこ思い出すと涙が出そうになってくるんですけども、そういった形で活かしていけるような政策をこれからも提案していきたいというふうに思っています。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。農地の活用については、令和 5 年度で非常にいろんな支援策、補助金等出ているんですけども、ただやはり大事なのは、誰がやるんだ、何を作るんだということになってくるかと思うんですよね。そういう意味で、妙高市は直売所やいろんな形で販路拡大、検討しているんですが、なかなか簡単にはいかないところなのかなというふうに思います。あと、遊休農地ですけどもこれほっとくと鳥獣被害とか、それから環境問題とかいろんなところに影響が出てくるんですよね。そういったことも含めてやっぱり妙高市においては農業問題って非常に大事なことかなというふうに思いますが、他の委員いかがでしょうか。何かご意見あればと思いますが、よろしいですか。農家さんがおらないもんですから。農業問題に関して他、何かございましたらご意見いただきたいと思います。はい。どうぞ。

○市民男性 C 妙高地域の〇〇の〇〇と申します。私も農業わずかですが、5 反ぐらいですが水田やっております。非

常に良いのはですね、生産組織を作ってやっているということで、個人の負担が、個人でやってた時と比べるとかなり負担の軽減になってるということで、個人で大規模にやっておられる方もいらっしゃるんですが、やはり後継者の問題ですとか、いろいろありますので、今後やはり生産組織、これを設立強化していくと、こういう体制づくりがやはり必要なんじゃないかなというふうに思います。個人の方は、次の代の跡取りがいらっしゃるとか、そういう方もいらっしゃるにはいらっしゃるんですが、やはり1人で1軒でやるというふうになりますと、なかなか大変な部分もあるでしょうし、生産組織の設立で運営していくということが一番いいのではないかなと感じています。原通の方も北部の方で圃場整備事業が取り込まれるということで、これも先ほどの園芸作物が条件だと、最初は2割ですかね、20%の園芸作物っていうような形で提言があったようなんですが、私はそのところちょっと該当してないので、我関せずにいるんですけども。聞くところによりますと、お金で解決しないと、園芸作物をやるにはやはり手間もかかる。どういうサポートを作っていくのかという、そういうところからやらなきゃいけないということですので、その辺はやはり難しい部分があるのかなと思います。国の政策で決まりがあるんでしょけども。その辺のところを、妙高市独自のやり方というものがある程度提案して進めていく必要があるんじゃないかなというふうに思っています。ちょっと話まとまりませんけども。ありがとうございました。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。個人でやるんだよではなく、組織的に活動していかないと、なかなかうまくいかないんだよっていうところとか、あとこれから何に焦点を置いていくかというところですよ。それについては先ほどの人口減少とも関係あると思うんですけどもなかなか組織として、組織をどうやって作っていくか担い手をどうやって作っていくかってのはなかなか難しいと思います。○○さんの地域には、非常になていうか強力なリーダーがいらっしゃるんで、なかなかこうまとまりようところもあるかなあという感じもするんです。あらゆる地域がなかなかその中で組織を作ろうまく継承していくことってのはなかなか難しいところもあるかなというふうに思うんですよ。そういう意味で農業を長く続けられている小嶋議員さん、いかがでしょうか。そういったところのアドバイスやご意見あればと思いますがいかがでしょうか。

○小嶋議員（小嶋正彰） 当妙高地区には生産組織、それから農業法人上中村新田とか、非常に先進的な一生懸命やっておられる。それから坂口げんき農場とか、どっちかという妙高市の中でもお手本になるような、そういう生産組織が非常に多くやっておられます。私も矢代地区ですけども、3年ほど前に生産組織が5つあったんですけども、みんな年寄りになって、俺らはとても駄目だわと、オペレーターも出られないわと、機械ももう10年使ってて、これ壊れるともう駄目だ、更新もできないわって言われて、だったらみんなまとめて旧矢代村全部を区域にして、農業法人作りましょうよということで今動いています。それで何が一番よかったかっていうと、やっぱり新しい技術を取り入れられる。これがやりやすいんですね、生産組織ですと、集落営農ですよ。そうすると法人じゃないから、借入れができないんですよ。組合長の個人責任になっちゃうんで。それが法人になれば、計画的にいろんな資金だとかそういったものが取り入れられる。そういうことになると、新しい技術を入れられるんですね。そこがやっぱり一番違うところですね。この間もその農業法人の総会に行ってきたんですけども。今回の燃料高騰。燃料がものすごく上がりましたよね、そういったのに絡めて、75馬力の1000万のトラクターを一気に更新したとかでね。或いは、直播きのドローンによる直播き栽培を取り組んでみようとか。いろんな新しい技術をやっぱり法人になることによって取り入れることができる。そして先ほどお話ししましたが新しい方が、給与、それから社会保険、それから退職金、こういったものをそろえることによって、新しい若い方が農業やってみようということに入って来る。そういうようなことで非常に持続可能な農業生産というものに繋がってきたなど、きっかけがね、だんだん個人で田んぼができなくなったんで、下のほうから大規模な企業が土地を求めてどんどん入ってきたんです。某企業というか、大きな建設会社さんですけど、そういったのが来てですね、ある日突然隣で知らない人が、

多分作り始めて、どうしたんだいねやって言ったら、あの企業に売ったんだわね。それでは、えさらいだとか共同作業にも出てきませんし、全体で農地を守ろうってことは、続けていかれなくなってしまう。そういったことをきっかけとしてですね。旧矢代村全部を区域として、67ヘクタールの農業法人作りましたけれども、そういうような形で、5年後、10年後の自分たちの地域の農業を誰がどういうふうにするのか。どうしていかなきゃいけないのか。そこをやっぱりみんなで考えていく必要があるんじゃないのかなと思います。先ほど申し上げましたように、非常に立派ですね、農業生産法人もありますので、ぜひそういったことを参考に、勉強して、検討していただくと、良いものになるんじゃないかなというふうに思っております。すいません。参考になるかどうかわかりませんが、よろしくお願いいたします。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。今日は農業農家の方がちょっと少ないものですから、そういった中で、なかなか盛り上がりなくとも私困ってるんですが、もう時間も大分迫って参りましたので、先ほどの人口減少対策でも構いませんし、農業で言っておきたいこと、またはフリーというか、その他のご意見でもいいということありますので。どうぞ。

3. 意見交換会「その他」

○市民男性A 議会の傍聴出席率トップとは言いませんが、トップクラスに入る人間として、意見並びに考えを発言させていただきたいと思いますが、私ずっとまあ10年以上参加していますが、去年、議長に質問しましたよね。国体で平成の時代に秋篠宮が来るのと、皇太子が来るのと、どのように違うのか。私は別に、クイズ番組やっているわけでもなんでもないです。国体という名のスキーの大会ってのは今年でもう終わる、終わったという話ですから、言いたいのは秋篠宮が来るのと皇太子が来るのでは、会場に皇太子が来たときには、車寄せから会場の一部全部歩くところに関して、屋根をかけなきゃいけないんですね。だから、会場費、作った時に、作る時に2割違うそうです。一番新しく清水亜久里さんが妙高市の文化ホールでやって開始式だったらばお金かからないんですよ。その代わり皇室はこなかった。宣伝にはならなかったということなんですね。だからいかに国体というものがお金かかるんだ。このお金の延長線で話しますと、赤倉に県営のジャンプ台あります。赤倉以外にあるのは旧塩沢町なんですね、県営が作ったのは、合併しちゃって平成17年かなんかに赤倉で、妙高市が合併した時にでき上がったんじゃないですか。だからそういうこと考えると、市の予算書見ると、年間の管理費、運営費が約5、600万かかっているわけですよ。だからそのことを考えていたならば、ほとんどが雪上車なんですね。だからそこで一番世界的に1番性能の良い雪上車1台幾らするか。ある議員にも聞きました。国会の時に新潟県代表で賞状受け取った人に聞きました。今買うと新品で約1台1億するんですね。ほんで今赤倉にある機械は1台新品で小さい方だったから7500万だったと。その代わりあるスキー場で使ったのは4年落ちのものを使っているんだと。だから30年、40年前だったらば、一番いいもので、1台3000万したそうです。それで、管理費が年間100万ずつで、5年かかると1500万かかるスキー場は5年でだすと。いかに雪上車に経費がかかるかということを考えなきゃいけないんですね。だから、安易に皆さん観光協会とはいうものの、いかにお金がかかるかです。だけど今これから投資の目的で呼んだからといっても、今までのようなバブルの前のように、すぐ結果が出るかといえば結果が出ないと思います。以上です。

それとその次に私は、昨日も発言しました。去年も発言しましたが、双眼鏡の問題について、お尋ねさしてもらいたいと思います。議長は知っているか知らないか知りませんが、覚えているかどうか知りませんが、私たち本会議傍聴に行ったときに、昨日も発言しましたが、報道関係者の席からいびきが聞こえて、議長のそばにいた議会事務局の職員が慌てて飛んできたこともありました。覚えていますかって言っても、もうそれは仕

方がない。そういうことがあった。本会議中にスマホを使っていた議員がいました。私1人ではなくて、〇〇さんにも、肩叩いて指をさしたんです。だからそういう人たちに比べれば、私たちは今います植木議長の時代に私たちは注意を受けた時にそれ以降から、私たち2人は何にも注意を受けていません。だから言った通り、落とす、ここにある書類なんかをもらうけれど、あそこから落とした経験もなければ飛行機にして、議場に向かって飛ばした経験も一切ありません。それでもまだ許してくれませんか。だから私議員がね、議会中にスマホを使っているなんて言語道断ですよ。だからそういうことを考えたら、私の意見を更に横並びにしないほうがいいと思うんです。妙高市では許されるんだと。ただし、私たち以外人間がそういうことをしたら、どうするかというのをそれから考えても私は遅くないと思います。変なところで横並びにする必要はないと思います。そして3つ目ですが、この間3月議会で決められて、最後の方に報酬的なもの1%上がったってということが議決されましたけど金額的に幾らぐらいですか。その2つだけを教えてください。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。〇〇さん再三質問みたいに本当に毎回来ていただいて、ご意見いただいてありがとうございます。これ一番最初に申しましたけど記録されます。そうすると皆さんが、話したことは必ず記録として残ると非常に良い場ですので、また引き続き来ていただいてですね、ご意見いただきたいと思います。それについて、そうしましたら総括的に佐藤議長よろしくお願いたします。

○議長（佐藤栄一） 1つは双眼鏡の件ですかね。双眼鏡はよろしいですか。

○市民男性A いいです。

○議長（佐藤栄一） よろしいですか。双眼鏡というのは、議場の規則として持ち込まないということにしてあるわけですね。これはもう全国的にも同じような形で取り組んでおりますし、昨日も多分議員の方からそのような説明をされたと思います。私としても、双眼鏡を持ち込む理由はありませんかという気もしますし、やっぱり落下が一番怖いというのが一つです。その点で妙高市も他の市と一緒に双眼鏡は持ち込みはしないようにという形をとっております。もう一つ報酬の方ですが、議員の方は約2%ですね。報酬を上げるという形をとりました。これは市長それから副市長、教育長、全部一緒です。それからいろんな審議会の委員の皆さんの方も同じ金額で上げてきたという形になっておりますので、議員だけ上がったわけではございませんのでその辺ご理解いただきたいと思います。

○市民男性A ですから落とすことに関しては、去年も言いましたけれど、禁止される前持ち込んでみて、言った通り並んでいる課長の顔と名前が一致しないんですよ。だから昨日、私市役所用事あって行ったら、部署の場所が変わってるわけですね。それと一緒になんで、知らないとそこ行ったら、いや違いますとか言われて。だからそれと一緒に、顔と名前が見えるから私たち持っていきます。持って行った時は、目的は。それで昨日私発言しましたけれど、落とすなんてことはあそこの議場で私考えられないんです。なぜかって言ったら、私ボールペンでみんな測りました。乗り出すこともできないし、だから議長6月に議会ありますから、私と議長ともう1人、皆さん誰か立ち会いのもとで測りましょうよ。それでさっき言った1%、2%上がったって、だから金額を私は平均幾らですかということ聞いてんですよ。幾らですか。

○司会（村越洋一） 回答できますか。数字の細かいところに関しましては、この場ではあんまり追求されなくていいんですが、もし回答できるようにしたらお願いします。また先ほどの双眼鏡の件ですけれども、これは毎回のことになりまして、その都度、何らかの形で私ら、ご回答させていただいてると思います。また今回も何らかの形でご回答させていただきたいと思いますので、何分よろしくお願いたします。

○市民男性A だから、私の言いたいのは、変なところで横並びにする必要はないんじゃないですかということなんです。だから去年発言した。妙高市議会手帳というものは双眼鏡で覗いてみて、覗いたって言い方もちょっといい言

葉で表現ではないかもしれないけれど、そこで違いがわかったんですね、私はその時県民手帳だと思っていたんです。そしたら、市議会議員手帳書いてあったのを読んでそれで違いがわかったんです。だから、あくまでも周りと一緒にしなくても、ある情報によると、私的なこと書いてあるプライベートなこと書いてあることを読まれたくないがために、読まれたくないんだということも言われたことがあります。だから私にしたら、双眼鏡で使うことと議会中本会議中にスマホを見てる議員に比べたら、どっちがどうですか。真面目ですか。

○司会（村越洋一） その点についてだけ、時間もございますので、ご回答いただいて…。

○市民男性A 結論だけ言ってください。

○司会（村越洋一） よろしく願いいたします。

○議長（佐藤栄一） スマホを見てたっていうのは私もよくわかりませんが、今6月議会先ほど、パワーポイントであった通り、タブレットになります。タブレットになりますと、いろんな情報、議員はその場で見るようになります。ですから、今はスマホでどんなものを見ていたかわかりませんが、これからはもっともっとそういったタブレットで、議案から何からすべて見るような形になりますので、皆様方から見ると、また違ったものを感じているかと思えますので、その辺は多分今度スマホなんて見てる暇ないくらいタブレットに集中していかなきゃいけない時期に入っていくと思っております。

○市民男性A みんながスマホではない、タブレットを全員使っていますか。使っていない人もいますよ。

○議長（佐藤栄一） これから、6月から本格的に入る形になってます。今は紙とタブレットの両方やっていくという形になっていますので、これからだんだんと、正直言って慣れるのが大変なんです。うっかり触るとページめくられていっちゃうんで、慣れが必要なんで、皆さんから見れば下手くそかなと思うかもしれませんが、6から本格的にやっていきますので、上から見ていただければというふうに思っています。それともう一つ言われたの、双眼鏡の件ですが、持ち込んでそこまで細かく見る必要があるのかというのが私のとこの考え方ですね。そしてもう一つ言えることは、今名札はだんだんフルネームではなくなります。個人情報になりますので、名前がだんだん小さくなっていくというか、見えなくなっていくことがありますし、そこまで見て勉強される必要があるのかなというふうに感じます。あれ議場では、全部課長だけの課の名前だけで動いてるものですから、その辺はご配慮いただきたいというふうに思います。

○司会（村越洋一） 以上にさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。他の方もいらっしゃるんで。

○市民男性A 私たち行ってね。そういうことで今度議長に約束してもらいたいのは、私たち傍聴席で見ていて、スマホを使っている人がいたら、議長指さしいですか。植木議長の時代に私たちいたときに、傍聴席静かにしてくださいという注意を受けたんですから、そういう発言できないから私たちはただこうやって2人で確認したんです。だったらスマホを使っている議員がいたら、議長と言って呼んでもいいんですか。それはできないと思いますけれど、特別に許してもらえますか。

○議長（佐藤栄一） 議場の議事整理権は議長にあります。ですから私の方から指示ない限りは、どちらかとは、傍聴席で発言はできません。その辺をご理解いただきたいと思います。あわせてスマホに関しましては、私どもの方で議員全員協議会等で見ないようにという指示は出していきたいと思います。

○司会（村越洋一） ありがとうございます。時間にもなりますので、あとご発言されてない方がいらっしゃいますけどよろしいですか。何かご意見等ありましたらお願いしたいと思います。はい。最後にさせていただきたいと思いますので。

○市民女性F お疲れ様です。いろいろなお話を聞かせていただいてありがとうございます。新井南部地域から参りました〇〇と申します。昨日も参加させていただいて、今日も参加をさせていただきました。いろんな方の発言を

聞いて感想というか、思ったことをちょっと率直に最後に伝えられたらと思います。まず、議会の傍聴なんですけど私3月に初めて行って見ました。ただ働いているので、平日開催の議会だと、やっぱり仕事を休んで行かなきゃいけない。なので普段はスマホとかパソコンでYouTubeを拝見しています。それこそお風呂で見れたりするので、傍聴に行かなくても情報はそこでられるように配慮していただいている、働いているものにとっては非常に情報公開というかありがたい形で議会の運営していただいているなというふうに感じております。それからさっき〇〇さんが言っていた雪のこと、人口減少の話なんですけど、そのマイナスが雪っていう話だったんですが、私、愛知から移住してきて今年20年目になるんですね。やっぱり雪は大変だなあとというふうに率直に思います。で、近所の人にちょっと聞いたことがあるのが、雪こんだけ降るんだし、太平洋側と状況全然違うんだから減税とかできないのかってという話を聞いたことがあります。そしたら昔は何か田中角栄さんの時代になんかそれらしきことがあったとかどうかちょっとよくわかんないんですけど。それこそタイヤも必ず買わなきゃいけないし、車も傷むし、なのに太平洋側と日本海側で同じ税金払っているって何か不公平だなあと、これ率直に私は感じているので、何らかの形をそれが国なのか県なのかわかんないんですけど、してもらったらなんか少しは負担が減るのかななんていうふうに、思ったりもしました。それから人口減少に関してなんですけど、一概に減るっていうよりも、2020年までは85歳以上がどんどん増えていっているんですね妙高市の場合。減っているのは0歳から、生産年齢人口と言われる64歳まで。それより上の世代は今まで増えていました。ただ今後は減っていきます。そうなった場合にどういうふうに妙高市運営していくかということ、今後それも地域ごとに細かく見て考えることが必要だなというふうに、感じているので、一概に人口減少で子どもが減るけど戻ってこないっていう話もありましたが、今うちも上の子大学生で、外に出てます、下は高校一年生で直江津に通っています。正直教育費も大変なので、住み続けるにはどうしたらいいかっていう部分で、未来。子どもたちが帰ってこれるような妙高市になると、私は嬉しいなというふうに感じているところです。いろいろとありがとうございました。以上です。

- 司会（村越洋一） ありがとうございました。お時間がないところ、皆さんからご意見いただくことができました。本当にありがとうございました。活発に意見交換をいただきましたけれども、予定した予定していた時間も経過しておりますので、本日の議会報告会・意見交換会についてはここで閉じさせていただきたいというふうに思います。私、司会者の立場でありながらですね、余計なことをたくさん申しもし大変失礼いたしました。5人目の議員ということでご了承いただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

4. 閉会あいさつ、閉会

- 司会（村越洋一） 以上をもちまして議会報告会・意見交換会を閉会いたします。なお、お手数ですが、アンケートのご協力をお願いしたいと思います。記入が終わりました用紙はそのまま結構でございますので、机の上に置いて、お帰りいただきたいと思います。お帰りの際は、事故等に十分注意してお帰りいただければと思います。本日は大変ありがとうございました。
- 議員一同 どうもありがとうございました。

閉会 午後8時43分